

しずくしい 議会だより

●平成22年1月28日発行

発行／雫石町議会

〒020-0595 岩手県岩手郡雫石町千刈田5番地1

電話 019-692-2111 ファックス 019-692-2828

ホームページアドレス <http://www.townshizukuishiiwate.jp/>

編集／議会広報編集特別委員会

No.72

●今号の主な内容

新春のごあいさつ...2

12月定例会のあらまし...2~7

町の考えを問う

一般質問 6議員が登壇...8~13

常任委員会の活動報告...14~16

議員クローズアップ・研修報告...17

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り 38...18~19

12月定例会のあらまし



新春のごあいさつ

町議会議長 平 子 忠 雄

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、健やかで希望に満ちた初春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年中は皆様のご支援を賜り議会活動に精励できましたことに対し、心から感謝を申し上げます。

今日の社会情勢を見ますと、国内外ともに大きな変革の時

期に遭遇しております。こうした状況は、地方行政はもとより、町民にとっても多大な影響が懸念され、地方自治体においては、まさに行財政運営の真価が問われる時代と言っても過言ではありません。

このような状況であるからこそ、行政、議会ともに知恵を出し合い、住民福祉の向上を目指して活発な議論を交わしていく必要があるものと思っております。

社会経済情勢は厳しく、先行き不透明な状況が続いていますが、我々議員一同、本年も町民の皆様の負託とご期待に添うべく、一丸となって行政課題に取り組んでまいり所存でございます。

最後になりましたが、皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、当議会への変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げ、年頭に当たってのごあいさつといたします。



町の保健・医療・福祉を担う

「健康センター」オープン

平成21年第9回定例会は12月4日から12月11日までの8日間の会期で行われました。

本定例会では条例案件2件、条例の一部改正案件2件、補正予算案件9件、議決を求める案件4件、認定案件1件、同意案件3件、計21案件を全て原案通り可決しました。

請願3件と陳情1件は全てを採択とし、これを受けての意見書4件を発議し可決しました。

また、人権擁護委員候補者3名の推薦を適任とし、町当局に答申しました。

一般質問は8日、9日の2日間にわたり6人が登壇し、雇用問題、福祉、特産品開発、学校の適正配置、インフルエンザ対策等について町当局や

教育委員会の考えをたしました。

本定例会で栗石町健康センター条例が制定されたことにより、いよいよ待ちに待った保険、医療、福祉の拠点施設が平成22年1月12日から一部供用開始されます。

また、栗石町まちおこしセンター条例が制定され、4月から指定管理者が町の地場産品を開発し提供するとともに、観光、歴史、文化、伝統等に関する情報を発信していくことになります。

また、栗石町保育所条例の一部改正により、西山保育所が4月から民営化され、西山保育園となります。

■条例の制定

- 雫石町健康センター条例の制定について（全員賛成⇒可決）**
雫石町健康センター新設に関し必要な事項を定めるためのものです。
- 雫石町まちおこしセンター条例の制定について（賛18、反1⇒可決）**
雫石町まちおこしセンター新設に関し必要な事項を定めるためのものです。

条例制定の主な質疑

- 問** 雫石町健康センター設置項目に「町民が生涯、健康やかな生活を維持するための活動」とあるが、活動内容はどのようなものか。
- 答** 子育て支援、介護予防、健康づくり、町民の自主活動、世代間交流、情報スペース、利用者の休憩など多様な利用ができるよう事業を展開していく。
- 問** 雫石町健康センターが平成22年1月12日一部供用開始となるが運営に係る規則や計画はできているか。
- 答** 地域包括支援センターおよび診療所については現在の施行規則を運用し、雫石町健康センターについては1月1日の施行に合わせ作成する。集いの広場の事業計画は策定を終えている。



一部供用開始された健康センター

- 問** 雫石町まちおこしセンターの地場産品開発や観光、歴史文化を通じ、情報発信というテーマは町が指導するか。もしくは指定管理者が自主的に運営するのか。
- 答** 町の中心市街地活性化基本計画の成否は尊重し、指定管理者が趣旨に沿った自主事業を展開していくという基本的な考えである。

- 問** 雫石町まちおこしセンター内に特産品名物料理企画研究開発室があり、農業者トレーニングセンターやコテージむらに類似したものがある。連携をどう図るか。

- 答** 農業者トレーニングセンターは農業サイド中心に、コテージむらは補助事業導入で目的をもった特定の方の施設と思っている。緊密に連携した対応は必要だが、まちおこしセンターは特産品開発の販売戦略や製造等に重きを置いている。



4月オープン予定のまちおこしセンター

■条例の改正

- 雫石町保育所条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）**
西山保育所の民営化に伴い条例から項目を削るものです。
- 雫石町都市公園条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）**
都市公園法及び施行令の規定と整合を図るためのものです。

条例改正の主な質疑

- 問** 保育所の民営化を実施してみてどう評価をしているか。
- 答** 民営化後の調査はしていないが、年度末までには保護者対象にアンケート調査を考えている。また受託者による新たな行事や施設環境をさらに良くしたいと職員総出で施設の塗装や窓ふき、園庭の除草など、よりよい保育に取り組んでいると感じている。
- 問** 県内でごく少数の取り組みしかない病児、病後児保育事業の実施について検討状況はどうか。
- 答** 平成22年度の実施に向け取り組んでいきたい。
- 問** 民営化により既存の職員の配置はどうなるか。
- 答** 14名の職員が残るが、へき地保育所に2名、残りの12名についても御明神、西根保育所への配置で余剰職員はない。

■一般会計補正予算

○栗石町一般会計補正予算（第6号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
91億2,293万3千円	5,172万5千円	91億7,465万8千円

- ▶障害者自立支援給付費 3,762万7千円
- ▶子育て応援特別手当（減） ▲1,440万0千円
- ▶栗石診療所特別会計繰出金（減） ▲2,079万2千円
- ▶新型インフルエンザ予防接種費補助金 1,614万0千円
- ▶火葬場非常用発電機取換工事 525万3千円
- ▶いわて希望農業確立緊急総合支援事業費補助金 674万9千円
- ▶農業振興青年クラブ創立40周年記念事業費補助金 30万0千円
- ▶下川原地区水路整備工事 494万4千円
- ▶工事に伴う物件等補償費 663万1千円
- ▶下水道事業特別会計繰出金 908万2千円
- ▶中学校総合体育大会等選手派遣費補助金 492万1千円
- ▶林道災害復旧工事 1,510万1千円



新型インフルエンザ予防接種費の助成を実施

補正予算の主な質疑

問 子育て応援特別手当が1,440万円減額になったのはなぜか。また、このような事業はほかにもあるのか。

答 政権交代による予算の見直しの中で廃止されることとなったためである。電子黒板などすでに実施済みで認められた事業もあり、この事業以外にはない。

問 政府は第2次補正予算により地方支援として3兆5,000億円計上し、この中で地方の道路補修等の公共事業を推進するとしているが、当町は道路整備の要望が多いことから、これを重点的に実施する考えはないか。

答 3兆5,000億円のうち、税減収の補てん分を除けば約6,000億円地方の公共事業に配分されるようであるが、その中から当町にどのくらい配分されるのかをみた上で、道路だけでなく一番町内の経済が回るような事業、例えば救農土木事業等さまざま検討していかなければならない。

問 火葬場非常用発電機取換工事費として525万3千円計上されているが、9月補正予算でも屋根の改修工事980万円が計上された。火葬場を建設してから28年経っており、毎回修繕が発生しているように見受けられるが、新しく建て替える考えはないか。長期的な視点から検討する時期にきているのではないか。

答 今回は、非常時に備えて発電機を更新する必要があるため計上した。維持補修を続けながら利用していかなければならないと考えており、新たに建て替える考えはない。現在、ゴミ焼却について滝沢村と一部事務組合部分として検討しているので、火葬場についても連携できるものであれば検討したい。

※一部事務組合…各市町村の事務の一部を共同で処理するために設立する組合。1市町村では対応できない、あるいは広域で取り組んだ方が効率的である等の理由で設立されるもので、ゴミ処理、消防、火葬などの組合がある。



老朽化が進む町営火葬場

問 新型インフルエンザについて、輸入ワクチンは副作用が出るという心配も聞かれるが、安全性についてはどうか。また、計画を立て無駄のない予防接種をすべきではないか。

答 政府は輸入ワクチンについて、小さな子供や基礎疾患のある方は危険性はあるが一般の人は副作用を引き起こす可能性はまれであるとしている。また、町内の各医療機関の11月30日現在の予約者は910人となっており、ワクチンを無駄にしないように、予約された方に連絡を入れて計画的に接種を行っている。

問 農業振興青年クラブ員は、将来の雫石の農業、産業を支えていく人材であるが、40周年を機に当町の青年に夢を持たせるような事業施策を考えるべきではないか。

答 農業の町、雫石町を担う方々が何とか元気を出してもらいたいと考えており、旧農協と当町で1,000万円を出し合って作った海外研修事業基金を活用することが重要と考えている。活用が困難な場合でも町単独で応援する手立てを考えていきたい。

問 下川原地区水路整備工事の協力金（受益者負担金）を工事費の5%とした根拠は何か。また、類似の箇所があれば対応するのか。

答 今回の工事箇所は青線になっているが、農業用排水路に使われており、産業振興課で取り組んだものである。受益者が10人ほどと少ないこと、この周辺には地元負担がなく作った水路があること、隣接する方々とのトラブルが発生したことなどから、災害復旧と同じような対応としたものである。今後も問題となる箇所がある場合には、その地域の事情等を勘案しながら対応していきたい。

■特別会計補正予算（主なもの）——

○雫石町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
19億1,108万4千円	2,528万2千円	19億3,636万6千円
▶一般被保険者高額療養費 2,522万5千円		

○雫石町下水道事業特別会計補正予算（第3号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
11億2,081万6千円	1,415万8千円	11億3,497万4千円
▶流域下水道維持管理負担金 982万1千円		

○雫石町農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
1億6,339万1千円	△11万7千円	1億6,327万4千円
▶人件費（減） △11万7千円		

○雫石町介護保険事業勘定特別会計補正予算（第3号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
11億4,017万9千円	2,592万円	11億6,609万9千円
▶居宅介護サービス計画給付費負担金 372万9千円		
▶地域密着型介護サービス給付費負担金 1,141万8千円		
▶介護予防サービス給付費負担金 406万7千円		
▶高額介護サービス費負担金 345万5千円		

○雫石町立雫石診療所特別会計補正予算（第2号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
11億1,105万1千円	△1,862万3千円	10億9,242万8千円
▶人件費（減） △1,935万8千円		
▶医薬材料費 73万5千円		

○雫石町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
1億2,031万7千円	26万8千円	1億2,058万5千円
▶過年度分後期高齢者保険料過誤納付金還付金 26万2千円		

○雫石町水道事業会計補正予算（第1号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
2億8,809万2千円	321万3千円	2億9,130万5千円
▶給排水管修理代 224万6千円		

補正予算の主な質疑

問 町の歳入のなかでも国民健康保険税は大きなシェアを占めているが、収納状況は。

答 平成21年の現年分の収納は11月末現在で56.96%となっている。2月末までの納付となっているので、課一丸となり収納に努力する。

問 下水道管理費の流域下水道維持管理費負担金増の内容は。

答 下水処理は県が行っており、管理費は処理場に流入した水量により関連市町村で負担することとなっている。今年度は現在まで各市町村が報告している水量と、県の処理場の流入水量に開きがあり、その差異分の負担金を配分されたものである。

■請願

12月定例会では請願3件、陳情1件の提出があり、担当する総務常任委員会、教育民生常任委員会に付託の上審査しました。結果は本会議で全て採択と決定しました。

○請願第4号 JR不採用問題の早期解決を求める請願

提出者＝国鉄労働組合盛岡地方本部
執行委員長 斎藤庄司

○請願第5号 教育予算の拡充、教職員定数の改善を求める請願

提出者＝岩手県教職員組合岩手支部
支部長 野田敏明

○請願第6号 義務教育費国庫負担制度堅持および負担割合二分の一復元を求める請願

提出者＝岩手県教職員組合岩手支部
支部長 野田敏明

○陳情第2号 電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長を求める意見書の提出について

提出者＝ダム・発電関係市町村全国協議会
会長 辻 一幸

■発議

採択した請願・陳情をもとに意見書を議員発議で提案、可決し関係機関に送付しました。

○発議第1号 JR不採用問題の早期解決を求める意見書（全員賛成⇒可決）

国鉄が分割・民営化され、JR各社への移行過程で発生した職員の「JR不採用問題」が未解決のまま長期化している。政府に対し、この問題の早期解決に向けて関係者に働きかけるなど、一層努力するよう要請する。

提出先＝衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣、内閣官房長官

○発議第2号 教育予算の拡充、教職員定数の改善を求める意見書（賛18、反1⇒可決）

義務制第8次・高校第7次教職員定数改善計画の実施、30人以下学級の実現、教職員の人材確保のための教職員給与の財源確保・充実などを要望する。

提出先＝衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

○発議第3号 義務教育費国庫負担制度堅持及び負担割合二分の一復元を求める意見書（全員賛成⇒可決）

教育の全国水準や教育の機会均等を確保する義務教育の基盤づくりは国の責務である観点から標記を要望する。

提出先＝衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

○発議第4号 ※電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長を求める意見書（全員賛成⇒可決）

平成22年度末で交付期限を迎える水力交付金について、平成23年度以降は恒久的な制度とすること、および原子力発電交付金との格差を踏まえ交付条件を改善することなどを要望する。

提出先＝総務大臣、財務大臣、経済産業大臣

※電源立地地域対策交付金…水力発電用施設の所在する市町村に対し、住みよい町づくりの基盤を整備する事業費へ充てることを目的として国から交付されるもので、当町でもさまざまな事業に活用されている。



長年使用されている葛根田第2発電所

■人事

○教育委員会委員の任命に関し同意を求めることについて（全員賛成⇒同意）



再任
むらかみ いさお
村上 功 氏

（69歳・八区行政区在住）

任期 平成21年12月26日～平成25年12月25日

○雫石町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて（全員賛成⇒同意）



に さ せ すすむ
仁佐瀬 進 氏

（51歳・滝沢村大釜在住）

任期 平成21年12月18日～平成24年12月17日



やなば ひろき
築場 弘貴 氏

（45歳・中町一・二行政区在住）

任期 平成22年1月13日～平成25年1月12日

○人権擁護委員候補者の推薦に係る議会の意見について
平成22年3月31日をもって任期満了となる人権擁護委員の後任及び増員並びに再任者として、3名の候補者の推せんについて意見を求められましたが、それぞれ適任とする答申をしました。（任命は法務大臣が行います。）

新たな人権擁護委員候補者



おだ まさる
小田 勝 氏

（66歳・上春木場行政区在住）



はやし しゅういちろう
林 秀一郎 氏

（62歳・駅前行政区在住）



ふじわら つねこ
藤原 恒子 氏

（68歳・六区行政区在住）

臨時会

平成21年11月25日、第8回臨時議会が開かれ、条例の一部改正案件1件が提出され可決しました。そのほか
に報告案件1件、承認案件1件がありました。

■条 例

○一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正について（賛18、反1⇒可決）

人事院勧告に基づく国の給与改定に準拠し、一般職の職員の給与月額（0.2%減）住居手当（新築・購入後5年に限り支給は廃止）期末手当および勤勉手当（0.35カ月減）ならびに特別職の職員で常勤の者（議員を含む）の期末手当（0.25カ月減）の改定に伴い、所要の整備を図るため関係条例を改正したもの。

■報 告

○損害賠償の額を定める専決処分の報告について

雫石診療所駐車場内において強風により窓枠が外れ、駐車していた自動車にあたり損害賠償9万3千420円を専決処分したことについて報告を受けた。

■承 認

○平成21年度雫石町一般会計補正予算（第5号）の専決処分に関し承認を求めることについて（全員賛成⇒承認）

新型インフルエンザ予防接種費補助金414万9千円を財政調整基金より繰り入れし、予防費として支出する専決処分を承認した。



質問者／
いとうてつお
伊藤哲夫 議員

児童生徒の医療費無料化を

町長／実現に向け取り組む

伊藤議員 ひとり親世帯の貧困率54%は先進国の中でも最低水準であったと厚生労働省より公表されている。子育て支援対策として中学校卒業まで医療費の無料化を拡大する考えはないか。

町長 子育て支援対策として乳幼児の医療費助成に関し、県の医療費助成制度のほかに町単独事業として所得制限を撤廃し、就学前の乳幼児を対象に実施している。平成20年の乳幼児医療費助成は県単独分700名で助成金1,465万円、町単独分が87名で助成金額185万円、総額で約1,650万円となっている。平成20年4月より医療費の窓口負担2割の対象者が3歳未満から小学校入学前まで拡大し、負担の軽減が図られている。全国的に子育て支援及び少子化対策として乳幼児の医療費助成を就学前から中学校卒業まで拡大、援助する自治体が増えてきている。当町においても子育て支援の強化、少子化対策及び生活援助の面から医療費助成の対象を中学校まで拡大した医療費無料化について検討を加え、実現に向け鋭意取り組んでいく。

伊藤議員 実施時期の見通しは。

町長 財源も含め検討中だが、できれば新年度4月1日からの施行としたい。

子育て世帯の学校給食費の負担軽減を

伊藤議員 景気の悪化に伴い、経済的理由により学校給食費を払えない家庭が増

えていると聞く。負担を軽減する子育て支援施策として給食費の軽減を図る考えはないか。

町長 学校給食にかかる経費は平成20年度において1食あたり585円であり、町が約317円、保護者が約268円の負担となっている。設備、人件費等は町が負担し、保護者には食材費と燃料費のみを負担いただいている。

給食費の負担軽減措置として経済的理由により修学困難な場合に給食費を就学援助費として支給しており、今後も継続した援助を行っていく。

誘致企業の雇用状況は

伊藤議員 川井林業の雇用は当初計画が実施されているか。また、地元雇用はどうなっているか。

町長 当初の事業計画ではL V L製造販売を行い、50名程度の雇用を予定したが、平成19年度に事業内容を変更したことに伴い、雇用は30名に縮小となった。

従業員採用については、平成19年11月より一般採用を行い、平成20年4月には雫石高校卒業生4名を含む7名を採用している。平成21年11月末では全従業員33名のうち、町内雇用は16名となっており、当初計画と比較すると従業員雇用は縮小しているが、変更後の事業計画をやや上回る雇用状況となっている。

質問者／
加藤眞純 議員



町でも事業仕分を

町長／導入の考えない

加藤議員 政権交代による事業仕分けを見ていると、「納税者のお金があたかも“お上”から与えられると言う錯覚の時代」に、幕が引かれたのだと思いたくなる。

国や県が大きく変わろうとしているとき、町も大きく住民主導体制へと変わらなければ、ますます地方は疲弊し、格差は拡大するといえる。

予算編成の時点で、「そもそも必要なか?」「必要であるならば町で行うべきか?」「民間に任せてもいいのではないか?」「効率的に行われているか?」といった視点で、事業の在り方そのものを外部の視点を取り入れて考え直す、「事業仕分け」を公開の場で実施する考えはないか。

町長 まずは、現在実施している評価制度による施策や事務事業の管理運営と、新たに策定する行政改革大綱に基づく行政改革実施計画の取り組みを進めながら限られた財源を有効に活用していきたい。

過去の一般質問への答弁の進捗状況について

加藤議員 答弁がその場限りとならないように主なものの進捗状況を確認する。

定住促進条例が必要では

(平成19年6月)に対し、19年度中に定住促進対策の指針策定をするという件のその後は。

町長 平成20年3月定住促進対策に関するガイドラインを策定した。

加藤議員 町内企業との公害防止協定のその後は(平成20年3、6月質問)。

町長 今後とも努力していく。

加藤議員 低周波音の被害で、測定値は参照値を超えているようだが(平成20年9月質問)。

町長 今後も継続して測定していく。

工場等設置奨励金交付に町民雇用の条件は

加藤議員 工場等設置奨励金交付の条件として、従業員数の中に占める町民の雇用割合の規定が必要では。

町長 従業員数15人しか規定していない、町民雇用の働きかけはしている。

川井林業の突然の夜間操業開始について

加藤議員 住民に何の説明もなく夜間操業が開始されたようだが。

町長 文書で嚴重注意し、操業時間や作業内容を変更させた。



平成20年に策定された定住促進対策に関するガイドライン



質問者／
おおむらしょうとう
大村昭東 議員

健康センター変更工事の適法性、妥当性は

町長／適切に事務執行している

大村議員 地方自治法は契約の締結など、重要な事案について議会の議決を要求しているが、雫石町健康センター新築の請負契約や工事の変更は法に基づいて適切に執行しているか。

町長 財務事務提要や契約締結事務フロー、契約書別記に基づき適切に事務執行している。

大村議員 議会の議決に付すべき関係条例第2条によれば、当初契約の5分の1以下、あるいは1千万円未満の変更契約は議決も議会への報告も不要となるが、これは地方自治法違反ではないか。最高裁の判示によれば、たとえ軽微な変更であっても、契約の内容を一部変更しようとするときは再び議会の議決を経るべきとしているが。

総務課長 条例にあるように5分の1以上あるいは1千万円を超えた時点で議決を求めるというやり方で良いと判断しているが、行政実例を参考に内容を精査したい。

地球温暖化防止の町づくりについて

大村議員 国はカーボン・オフセット・クレジット制度など、農山村の資源を活用した地球温暖化対策の支援策をスタートさせているが、雫石盆地の太陽光や農業用排水路、地下水など豊富な水資源を利用した「小水力発電」、森林のCO₂吸収の増

大、農業によるCO₂効果に取り組むなど、地球温暖化対策のトップランナーを目指した町づくりを進めては。

町長 農業用排水路の「小水力発電」は夏期と冬期の流水量の違いによる発電量の変化やコスト等の問題により実用化が進んでいないが、調査研究を進めたい。

評価システムの実用について

大村議員 本町が導入している評価システム、マネジメントサイクルを農業指導センターやコテージむら農場、アグリリサイクルセンター、米の生産販売対策に実用し、農業振興に係る課題を解決すべきではないか。

町長 このシステムは有効なものであることから、成果が上がるよう不断に取り組んでいく。

大村議員 評価システム導入の先進町村の運用上の実感、悩み、改善について調査研究しているか。

経営推進課長 毎年度評価の内容についても検証しながら評価のスキルが上がるよう取り組んでいる。

※カーボンオフセットクレジット…二酸化炭素を一定数量排出する権利。排出権。国連や民間団体などが二酸化炭素削減プロジェクトを認定することで発行される。国連に認証されたものと国連以外の団体に認証されたものがある。

質問者／
上野三四二議員
うわのみよじ

もっと農協と緊密な連携を

町長／農協の営農経済センターの強化要望

ループ制は定員適正計画の見直しに合わせ、人員数、グループ数など検討を加えたい。法的設置の審議会があるが当然即応できる体制が必要であるが構成メンバーが組織代表もあり、1人で5、6委員、多くは10の委員を兼ねているということもあって見直しもしてきた。各種団体、協議会などマンネリ化も否めないの、意識改革を願い町の考え方も示しながらあるべき方向を考えたい。

学校の適正配置や新型インフルエンザ対策は

上野議員 少子化が進行し、児童の減少で複式学級が増えている。時代に合う教育がどうあるべきか、検討委員会を設置することになっているが検討内容を聞きたい。新型インフルエンザはワクチン予防接種の遅れもあり、感染が止まらない、対策はどうなっているか。長引けば授業不足が生じるが補習対策はどうするか。

教育長 教育委員会として明確な方針を出せないでおり、検討委員会は立ち上げまでに至っていない。児童数は今後も減少するが合併、統合ありきでなく、子どもたちの最適な教育環境と今後の学校のあるべき姿を検討したい。

新型インフルエンザは現在まで11校中9校、感染した児童生徒は393人、全体の27.7%となっている。今回のように臨時休業措置が長期にわたる場合は授業時数の不足について時間割の工夫や行事の変更で授業時間を確保し、未履修がないようにして行く。

上野議員 農業振興を図るには農協との緊密な連携が必要である。もっとトップで話し合ってはどうか。国の方針転換で農業者は期待もあるが不安も大きい。水田利用自給力向上事業、個別所得補償制度にどう取り組む考えか。農業者にはいづろ説明をし協力を求めるか。

町長 農業者に親しみがあるのは、地域営農経済センターだと聞く。センター機能強化とセンター長権限強化が高まれば円滑に行くと思う。農業者の立場に立った農協運営が望まれる。地元選出理事を通じながら農協トップと話し合いを考えている。また、国の新たな農業政策はいまだに明確になっていないが、12月中には町に対し生産目標数量の配分をするとしており、1月中に地域水田農業推進協議会を開き、2月中には農業者組織や農業者に説明をし協力を得たいと考えている。

町の業務機構、審議会や協議会など組織の改革改善は

上野議員 地方自治体の執行体制は地域主権の確立のもと変革が求められている。本町は自立を標榜し業務の効率性を高めているが、新政策と町民ニーズに呼応して、現業務機構の見直しやグループ制の点検、各種審議会や協議会運営のあり方など改善を要する点がある。町長の考えはどうか。

町長 独自の町づくりのためには組織再編は必要と考えている。雫石町健康センター建設に伴い保健、医療および福祉の拠点施設と位置づけており、新年度に再編を検討している。グ



質問者／
まえ た た か お
前田隆雄 議員

ありね山荘へのバス路線延長は

町長／需要により運行方法等を慎重に検討

前田議員 ありね山荘へのバス路線延長について、何らかの対応を考えているのであれば伺いたい。

町長 二つの問題があると考えている。一つは、グループでの利用申込も多く予想され、本来確保すべき交通弱者の「日常の足」の機能が果たせなくなる恐れがあること。二つ目は、積雪の多い所にありアクセス路が狭隘^{きょうあい}で曲折しているなど、運行条件が良好とは言えないことである。しかしながら、あらゆることを想定しながら検討することで、実現は可能であるとする。



ありね山荘への乗り入れが期待されるデマンドバス

産地づくり交付金の動向は

前田議員 産地づくり交付金は、今後どのように転換されようとしているのか。また、この事が本町農業に対し大きな影響を与えると思われるが、考えを伺いたい。

町長 新たな対策では、産地確立交付金の基本額及び担い手加算は廃止、麦・大

豆・飼料作物についての助成単価は3万5千円、新規需要米が8万円、ソバ・菜種・加工用米は2万円、その他作物は1万円としている。

米戸別所得補償制度も含め、まだ制度の詳細がつかめない状況にあり、今後の国の動向を注視し、しっかり対応していく。

新規需要米*への取り組みは

前田議員 「米の新規需要米への取組み」をどのように考えているのか、伺いたい。

町長 現行の農業機械、施設での対応が可能であることから、JAと協議の上、積極的に推進していく必要があると考える。

*新規需要米…飼料、パン・めんなど穀物の代用になる米粉、輸出、バイオエタノール用、わら専用稲などに用いるもの。

児童生徒の通学の利便性向上を

前田議員 宿泊施設等のバスを利用しての、スクールバス構想の進捗^{しんちょく}状況を伺いたい。

町長 バスを所有する63の宿泊施設等に対し「協力の意向調査」を実施したところ、11施設から「協力の意向」を示していただいた。その方々や学校教育機関、PTA等と協議を重ね、必要となる事業認可申請等を行い、モデル運行開始に向けた取り組みを行いたい。

質問者／
石亀 いしがめ
貢 みつぎ
議員

消火器の詰め替えに助成を

町長／補助制度の導入は難しい

石亀議員 各家庭に備え付けられている消火器は、防火防災の意識の高揚と備えをする点からも重要である。詰め替えに対して補助制度の導入は。

町長 消防機関による防火査察や自主防災組織設置による防火意識で、普及率は高いと認識している。消火器は個人の責任において設置しており、保管状況により更新方法はさまざまであり、各家庭で適正に更新すると考えられるので、詰め替えに対する補助制度の導入は難しいと考える。

広告事業の推進を

石亀議員 収入確保のため広告事業を推進してきたが、町が発行する封書などへの広告掲載、各種刊行物の活用など職員が意識を持つことにより自主財源の確保ができる。媒体拡大で広告収入額増を考えてはどうか。

町長 町の資源や資産を有効に活用した行政運営が求められている。ここ数年民間

事業者の広告表示で、新たな自主財源を確保し、内外の情報発信を通じて地域経済の活性化に波及効果も期待される。平成20年度の広告収入額は約155万円であるが、実施については他市町村の事例を参考に総合的に判断し取り組んでいきたい。

役場職員の町内居住について

石亀議員 定住化対策として種々の政策を実施している中で、職員に町内居住の義務付けはできないが、町民税、消費など大きな影響もあると考えるが、2点について伺いたい。
①町外居住職員は何人か。②災害発生時の対応に支障がないか。

町長 ①町職員243名中、盛岡市21名、滝沢村11名、矢巾町3名の計35名である。②危機管理体制を意識し、行動することが重要である。地域との連携を図り町民の目線に立って思考、行動し、一層の住民サービスが提供できるようさらに指導していく。



民間事業者の広告が掲載されている町の広報誌

政務調査会

毎月15日前後に開催している政務調査会（杉田和正会長）で、12月15日現地調査を実施しました。

①ありね山荘リニューアル工事

屋根葺き替え、外壁塗り替え、休憩所改修、脱衣室改修、浴室洗い場増設など多くの改修工事を行い、12月4日にリニューアルオープンしました。観光推進室長から説明を受け、出足好調で昨年の同時期と比較すると100%増の1日平均210人の入浴者が来場しているとのことでした。



新しくなったありね山荘の休憩室

②雫石町健康センター新築工事

健康センター準備室長より説明を受けました。本体建築工事は間もなく完成であり、設備工事および備品を整えれば1月12日に新館での診療が開始できると考えられました。



センター内のつどいの広場で説明を受ける様子

調査実施日／平成21年12月7日

調査項目／所管事務調査、現地調査

総務

総務常任委員会(前田隆雄委員長)は、以下の現地調査、所管事務調査等を行いました。

1. 12月7日現地調査および所管事務調査

1) 現地調査

①五区コミュニティセンター敷地造成工事

西山五区行政区の消防自動車庫の老朽化に伴う建て替え工事を来年度に計画し、今年度は敷地造成を発注しているとのこと。駐車場を含む同センター建設に十分な敷地であり、地域の活動の中核となる公民館も併設する計画であるとのことでした。

②まちおこしセンター建設工事

中町にあった店舗を買い上げ、改装、増築工事を完了し、平成22年4月よりオープンするとのこと。町内の生產品の展示場及び食品試作などを行う調理設備、郷土芸能などができるホールがありました。

2) 所管事務調査

自立した町づくりについて経営推進課から説明を受けた。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

1 自立する町づくりについて

- ・景観に配慮した町づくりについて



まちおこしセンターについて説明を受ける委員

調査実施日／平成21年12月7日
調査項目／所管事務調査、請願審査、社会福祉
協議会との懇談、現地調査

教育民生

教育民生常任委員会(石亀貢委員長)は、以下の現地調査、所管事務調査等を行いました。

1. 12月7日、福祉課から保育所の民営化および高齢化社会の現状について説明を受け、意見交換をしました。主な質疑は次のとおりです。

・問 今年度、民営化(社会福祉法人のぞみ会の民設民営になった。施設は譲渡、土地は無償貸付)した御所保育園は建物が立派になったが、その経費はすべて法人が負担したのか。

答 そのとおり。

・問 来年度から民営化する西山保育所(雫石町社会福祉協議会へ移管)は移管後修繕等の経費がかからないようにすべきでないか。

答 そのように考えている。

・問 地域住民の中には不安を抱いている人もあるが大丈夫か。

答 12月定例会で町保育所条例が議決になれば、専任職員が採用され、それら職員に十分に引き継ぎを行う予定としているので心配はない。また、保護者会にも詳細な説明をしてきており、今後も随時行っていく。

・問 65歳以上の人口比率が27.6%(11月現在)、65歳以上の人がある世帯は50%を超えているとの説明があったが、行政区ごとの高齢者の比率は把握しているのか。

答 雫石町社会福祉協議会が町と共催で開催している地域福祉懇談会の資料として調査したものはある(別途、資料の提供を受けた)。

2. 請願の審査を行い、請願第5号「教育予算の拡充、教職員定数の改善を求める請願」については、教職員定数改善計画を実施し、30人以下学級の実現を図ることなど

について審査しましたが、当町の小・中学校においては中学校の1学年が35人となっている以外はすべて30人以下の学級となっているものの、全国的には40人学級となっている現状にあることなどから、請願を採択としました。また、請願第6号「義務教育費国庫負担制度堅持及び負担割合二分の一復元を求める請願」については、国庫財源の一部が地方交付税措置に振り替わったことにより、教育の全国水準や機会均等を確保しにくくなることなどから、採択としました。

3. 人権擁護委員の推薦について協議し、町当局が推薦しようとする候補者3名を適任として認めることとしました。

4. 雫石町社会福祉協議会との懇談を行い、西山保育園の運営方針などについて意見交換を行いました。1月から3月までの間に係る開設経費(人件費など)は福祉協議会で負担する、建物の不良個所のチェックは現在、専門業者に依頼しているとのことでした。

5. 「デイサービスかしわや」を視察。少人数(10人以内)でゆっくり過ごすデイサービス(送迎あり)を行っており、家庭的なぬくもりがありました。一人ひとりに応じたきめ細かいサービスを目標にしているとのことでした。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

- 1 学校課題について
- 2 医療、福祉について



「デイサービスかしわや」での調査の様子

調査実施日／平成21年12月7日、17日

調査項目／所管事務調査、現地調査

産業建設

産業建設常任委員会（猿子恵久委員長）は、以下の現地調査、所管事務調査等を行いました。

1. 12月7日現地調査および所管事務調査

1) 現地調査

①九十九沢産廃最終処分場

大伸工業(株)猿舘会長ほか担当者から説明を受けました。

処分場20,000㎡の計画敷地中、現在までに使われた面積は7,000㎡（35%）ほど、また、地元との公害防止協定は締結したとのことでした。



企業担当者より現地で説明を受ける

②（仮称）まちおこしセンター

オープン準備中のセンターの説明を受けました。指定管理者の具体的で実効ある運営を望む意見が多数出されました。

2) 所管事務調査

①産業再生戦略会議について

産業振興課長より概要説明を受け、意見交換をしました。

- ・ 雫石産米の認証制度をスタートさせる（全農系統出荷分以外）
- ・ 地元の食材や郷土料理を観光に活かすための料理研究会発足
- ・ グリーン・ツーリズムの強化に向け勉

強会などに取り組む

②農業青年婦人研修基金について

基金(2,000万円(元本)、74万円(利子))の有効活用について、10月と11月に運営協議会の幹事会を開催した。次回は1月に開催予定であり、使途を海外研修に限らないなどを検討する旨の説明を受けました。

2. 12月17日研修視察

1) 東北農業研究センター大仙拠点

次について、低コスト稲育種研究東北サブチーム長の山口農学博士より研修を受けました。

① 直播栽培に適する水稻品種「萌えみのり」の特性について

② 東北地域向け飼料イネ品種

③ その他の稲品種

2) 秋田県協和町特栽米研究会

伊藤会長と会員の皆さんが地元の公民館に集合し、応対して下さいました。減農薬減化学肥料栽培の仙北あきたこまちの栽培と流通等についての説明を受け、活発な質疑応答を行いました。

3. 12月17日雫石商工会との懇談会

平成22年度雫石商工会重点事業計画等の説明を受け、特に中心市街地活性化推進事業等について活発な意見交換を行いました。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

- 1 農業・観光の振興策について
- 2 特産品の開発について



研究会の方々との質疑の様子

改選後の新議員をシリーズで紹介しています。今回は最後で、議席番号10番の議員が議員活動の抱負を語ります。

住んでよし、訪れてよしの町づくり

たなか えいち
田中 榮一 議員

(64歳・自営業・無所属)



家の前で妻と愛犬とともに

皆様のご支援により議員になってから7年になるところです。その間にもリーマン・ブラザーズ破綻等による金融危機、経済不況で世界は依然厳しい状況が続いています。このような出来事は、遠い国の出来事と思いきやすべてにわたってグローバルな昨今はアツと言う間に身近な問題となっていきます。メキシコで3月に発生した新型インフルエンザはすぐに日本でも流行し、当町でも12月議会において、予防接種費補助金として1,614万円が補正予算として計上されました。観光においても訪日外国人客を視野に考えなければ成り立たない時代になってきました。常に世界にも目を向けて大きな視野で雫石町のことを考えて頑張りたいという思いを強くしています。

●プロフィール

駒沢大学卒業、ペンション経営、全国ペンション協議会会長、雫石町観光協会副会長、岩手県観光協会評議員、雫石町商工会理事を歴任し現在2期目・総務常任委員会副委員長。趣味は旅行・スポーツ、極楽野行政区在住。

研修報告

議会広報編集特別委員会

議会広報編集特別委員会（谷地善和委員長）では、11月10日から11日の2日間で福島県広野町議会と同県柞葉町議会において、議会広報編集の研修視察を行いました。

広野町の議会広報は平成20年度全国議会広報コンクールで最優秀賞を受賞しており、議会広報に掲載する質疑の選択方法について工夫していることや、町民の方への原稿の依頼方法などが特徴的でした。定例会終了後1カ月以内の発行を原則とし、短い文章でわかりやすく、長く保存してもらえる広報づくりを心掛けているとのことで、我々の広報づくりにも非常に参考となりました。また、同町は最優秀賞を受賞した自治体に毎年研修視察を実施するなど積極的に広報づくりに取り組んでおり、コンクールで上位を目指すならば、もっと研修視察に行くべきとの助言をいただきました。

また、柞葉町においては平成17年7月より横書きの広報に変更しているとのことで、お互いに横書きという全国的に数少ない構成の広報誌を発行していることから共通の課題が多く、編集活動について多くの意見交換をすることができました。



広野町での研修の様子



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



なかむら ひでとし
中村 英俊さん
(62歳・極楽野行政区)



しな けんじ
階 研司さん
(59歳・中町一行政区)



みなみ の しげなお
南野 重直さん
(81歳・南行政区)

高齢者福祉の PRを

議会を傍聴して

議員の皆さんの活動に感謝いたします。

私は7年前に横浜から雫石の豊かな自然にあこがれて移住しました。横浜では福祉関係の仕事をしていました。公務員でしたが、当時は市議会や議員の方々は遠い存在でした。

雫石では、野菜を少し作ったり、昔語りや自然ガイド、伝説案内等を学んでいます。このような生活をこれからも続けていきたいと思っていますが、近くに大きな製材工場ができ、大きな音や煙、においなど影響が大です。

たまに議会を傍聴させていただく機会があり、とても身近に感じることができました。

ただ、そこでは議員の質問と町の回答が微妙にかみ合わず、聞きたいことが聞けないというもどかしさを感じました。

これからも住民の生活を守るという視点から、町民にもわかりやすい論議、活動を重ねていただくことを望みます。

私は昭和51年4月、日赤岩手県支部に入社しました。すぐに盛岡赤十字病院に出向し日赤鶯鳴荘建設計画担当となりました。当時は日赤鶯鳴荘の話をするをすると養老院のイメージがあり、なかなか理解してもらえませんでした。満床にするにも10カ月位かかったと記憶しております。この経験の中で、少人数の施設があったらもっと一人ひとりに充実した介護ができると思い、平成4年当時の町福祉課に相談しデイサービスを申請しようとしたのですが、当時は介護保険制度が始まる以前の措置制度（行政が主体でサービスを決定することを言います。）の時代で建設できるのは社会福祉法人しかなく、財産も相当なければ建設できませんでした。そして平成12年介護保険制度が始まり民間でも老人施設を開設できる制度となりました。やっと17年目にデイサービスかしわや、居宅介護支援事業所かしわやを開設することができました。一人ひとりに手が届く介護をするため、採算を考えずデイサービスを少人数にしました。そしてデイサービスかしわやが雫石町の高齢者福祉向上の一端を担えればと思っています。

本町では高齢者介護施設の種類も充実しており、気軽に相談できる体制が整っておりますので、議会におかれましては、高齢者福祉を町民にPRしていただきたいと思っています。

町議会に対しての 所管

日ごろ、町民の中には議員に対して地域の世話役ぐらいにしか思っていないのではないかとと思われることがあります。「選挙の時は極めて熱心だが、その後4年間はさっぱり住民との対話もなく、顔さえ見せない。当選すれば事足りるというのか。」などの批判があります。しかし、町民としても反省すべき点は多々あるのではないのでしょうか。町民も町政に対して大いに関心を持ち、議員に対して施策等の在り方などについて真剣に語り合うべきであり、そして議会の開催時には時々傍聴の機会を持つべきだと思います。一方、議員の皆様も時には説明不足、日夜の活動不足などあるかもしれませんが、町の政策決定を担う町議会の責任はまさに重大であり、ご苦労は計り知れないと思います。私たちもいたずらに批判のみに走らず、そのご労苦に心から感謝をし、さらなる町の発展のため議員各位の活躍を期待しています。



在京雪石町友会 会員 ^{しのむら}篠村 ^{ひろし}弘さん

昭和38年3月、集団就職列車で上京し15歳の旅立ちをした私は、ふるさとの山河を心の支えに平成18年退職まで45年間、我慢と忍耐で定年まで勤務することができました。これまで頑張ってきたのも、厳しくもやさしく育てられたふるさとのおかげです。岩手山麓の奥深い高倉山の近く篠崎地区が私の生まれたところです。毎日4キロのこぼ道で岩手山さんに見送られながら登校し、岩手山を仰ぎながら迎えらるるよう帰宅したものです。ふるさとはいつまでも変わらず私の心の支えであり、心のふるさとです。

中学生の頃、秋になると「きのこ採り」と称して、学校で「なべ・釜」と肉、野菜をどっさりリヤカーに積んで山にでかけました。採ったキノコで作った肉入りのきのこ汁の美味しさは今でもはっきり覚えています。またトラックの荷台に乗せられて行った小岩井農場での農作業など私は教室での勉強よりも野外活動が大好きだった気がします。

幼少時に父を亡くした私は6人兄弟という

境遇にもずいぶん助けられました。

長男は父親代わりで実家をまもり、長女は地元だったので、帰郷するたびに心配し助言して支えてくれました。兄二人と姉は東京で働いていたので末っ子の私を何とかと本当に面倒みてくれ、今では本当に感謝しています。六人兄弟であるがゆえに支えられ恵まれていた利点はたくさんあり、今の子供たちには経験できない環境です。

若いころは、帰省のたびに母に連れられて近くの氏神様（山神社）にお参りした。神社の境内の清水をふきの葉で作った器で飲んだときは、都会とは違うふるさとを実感できた瞬間でした。そして、また都会に戻って頑張ろうという活力をもらったものです。今でも母とのなつかしい思い出です。31歳の時縁があって結婚。妻との出会いは、同県人という気どころが二人を結びつけてくれました。その後一男二女に恵まれ、今は孫一人のおじいちゃん。孫もつれてみんなで氏神様にお参りするのが楽しみです。



清水で活力をもらった山神社の鳥居



韓国旅行のスナップ（右から2番目が筆者）

篠村 弘さんプロフィール

昭和22年生まれ。西根篠崎出身。西根小学校―西山中学校―神奈川県立商工高校卒業。

昭和38年日本発条株式会社入社。本社工場で製造ライン担当。

大手自動車メーカー各社のサスペンション部分、スプリング部門等の製造検査係リーダーとして活躍。

平成18年定年退職。家族は妻一男二女。趣味はゴルフ、カラオケ、楽しいお酒

雫石町へようこそ

お嫁さん

お婿さん



結婚式で夫の真也さんとの1コマ

ご縁があり、他の市町村から嫁いできた「お嫁さん」または、選ばれてきた「お婿さん」が登場します。

三河 友紀さん^{ゆき} (27歳 盛岡市出身)
(旧姓：竹花) (矢櫃行政区在住)

Q-お二人の馴れ初めは？

-同じ職場で知り合い、お付き合いするようになりました。

Q-雫石町で暮らしてみているいかがですか？

-5年前に結婚し、3年前に夫が農業を継ぐことになり、会社勤めを辞め、雫石町に来ました。ご近所の方々がとても優しく、お友達もでき、楽しく暮らしています。

Q-町へ望むことは何ですか？

-現在、子供が2人いるので、子育てしやすく、子供たちにとって明るい町になってくれればと思います。

Q-お子さんの予定は？

-3人くらいは欲しいですね。

議会の主な動き 11～1月

11月
1日 町総合芸術祭開幕式、しずくし軽トラック市閉会式
4日 議会広報研修視察受け入れ(東京都多摩市)
9日 町勢功労者表彰式
10日 県議長会第3回政務調査会
12日 行政視察受け入れ(熊本県上益城郡議長会)
13日 政務調査会
24日 議会運営委員会
25日 第8回臨時議会
12月
1日 議員全員協議会

2日 広域農道整備事業盛岡西部地区開通式
3日 雫石スキーリゾートエリア合同安全祈願祭
4～11日 第9回議会定例会
6日 歳末助け合いチャリティーショー
7日 総務・教育民生・産業建設常任委員会
15日 政務調査会、議会運営委員会
17日 産業建設常任委員会
24日 盛岡地区広域行政事務組合全員協議会

1月
4日 町新年交賀会
7日 雫石町健康センター竣工式
10日 成人式
11日 交通指導隊初点検式、消防出初式
15日 議会広報編集特別委員会、政務調査会、滝沢村政調査会合同研修会
17日 ニューイヤー女性フェスタ、裸参り感謝祭
21日 行政視察受け入れ(秋田県大仙市)、議会広報編集委員会
22日 第1回臨時議会

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳(10～12月)】

月	葬祭費	お祝い、会費
10	2件 40,000円	0件 0円
11	2件 40,000円	2件 11,000円
12	0件 -	3件 16,000円
小計	4件 80,000円	5件 27,000円
総計(1月～12月)	4件 80,000円	39件 196,000円

■編集デスク

昨年の衆議院選挙により、自民政権から民主党政権へと政権交代が行われ、本格的な二大政党制の時代となる。一党長期政権が約50年以上も続いてきたことにより、行政のいろいろな所に制度疲労が起こっていたと思う。今後、国の政治システム(陳情等)や各政策も変わるとされる。しかるに町政も変革するものとする。よって議員として大いに研さんしなければならないときである。「しずくし議会だより」において、新しい情報の掲載に努めたい。

(編集委員 田中 榮一)

●今号の表紙/本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたしております。笑顔が絶えないまちの元気な子供たちの様子を紹介。今回は、「上長山小学校」に通う生徒たちの笑顔です。